

土屋華秀（つちやかしゅう）

古往代々通に  
此劍掛空壁  
村懷  
長劍義我  
誠以莊思

古往は虚一人通に蔵ぬ長劍は空しく壁に掛けし為すとも其呻吟する  
鐘儀が村の國を懷ふ情を琴に奏すやうに莊思が越の境を吟すやうにと之故郷はなかり、華秀